

第18期 湯沢義郎

昭和30年代後半の高校ラグビー界は全国の中でも秋田工高と並び東京都のレベルが抜きんでおり、東京を制すれば全国を制する事が出来る、とまで言われていた時期で、東京都は2校が出場出来るという年度でした。

18期生は、実質的には前年10月の全国大会東京都予選で敗退した後から、新体制としてキャプテン湯沢、バイスカプテン金井を中心として練習を続けており、春のシーズンが始まった時には2年生の19期、新入生の20期を合わせると部員も25名ほどになっていました。

基礎体力に恵まれた者、センスが優れた者も多く、また18期生は全員の仲が良く「強くなりたい!」という意欲にも溢れたチームでしたが、残念ながら諸事情により数年前から年度の離れたOBとは疎遠になっていたため、教えて頂きたくとも教えてくれる人が居らず、毎日手探りで練習をしていました。

そんな事情をみかねて、手を差し延べてくれたのが13期の岩本さんで、それ以来、“やる気がある期”と思われたのか、続々と大勢のOBがグラウンドに姿を現わしてくれるようになりました。

なかでも5期の岡山さん、中山さんのお二人はほとんど毎日グラウンドに来られラグビーを教えてくれたばかりではなく、練習が終わった後には必ず牛乳とパンを差し入れてくれました。これがどんなに嬉しくて、どんなに美味しかったことか、我々は現在でも忘れられません。本当にお世話になりました。また大勢のOBの皆様ありが

とうございました。

それ以来、練習にもかなり科学的な事が採り入れられ、心肺機能を高めるためにサーキットトレーニングという先進的な理論を教えて貰ったり、セットスクラムの力学やホイールの技術、バックアップの際に走るコースをポジション別に徹底的に研究したり、ラインアウトではスローワーとキャッチャーがタイミングを合わせて直線的にスピードボールを投げ入れる練習、また敵ゴール前でペナルティを得た時にFWが壁を作ってクロスするようなサインプレーなど色々な事を研究したのを憶えています。

これらの技術や練習は現在では当たり前になっていますが、当時は高校生はおろか大学でもめったに見たことが無いような先進的なものでした。但し、スクラムとタックルの練習は決して科学的ではなく(?)、首の皮がむけたり、腿のビフテキが乾く暇もないほど、年間を通してただひたすらに本数をこなしたような気がします。全体的な雰囲気はこのような感じでしたが、千歳高校として3回目となる全国大会東京代表の座を本気で狙っていた期でもありました。

公式戦としては、春から順に新人戦、7人制大会、関東大会予選、全国大会予選というものでした。

最終目標である全国大会予選において新聞の下馬評では、本命が京王商業(現・専大京王)で、ダークホースとして都立千歳とありました。(保善は前年度優勝のため予選免除)

京王商業とは前年から宿敵意識が続いており、春

（ 第 18 期
同期生からのことば ）

の新人戦では我々が快勝したのですが、本番となる秋の予選では準々決勝として本郷高校のグラウンドで対戦し前半は3-3の同点で折り返したのですが、後半に0-11とされ、残念ながら我々の夢は消えてしまいました。（因みに当年度の全国大会は東京勢が勝ち進み、優勝は保善、そして京王商業が準優勝でした）

この他、印象的な試合としては、八幡山の明大グラウンドで開催された新人戦の最中に近所で火事が起り、それがどうやら試合をしている高梨の家らしいという事になり、レフェリーの江田氏が試合を一旦中止してスパイク、ジャージーのまま消火活動をした事があります（幸い同君の家ではなかった）。また、不思議なのですが、この年と翌年二回だけ高校の7人制の試合が行われ、秩父宮のグラウンドで走った事も挙げられます。

練習試合も夏合宿をはさんで春から秋までかなり行いましたが、ディフェンスが強いチームであったので大敗する事は一度もなかったのも我々の期の自慢と言ってもよいでしょう。

なお、19期生が我々と練習方針の違い等から5月になって全員退部したのが残念です。彼等が居れば試合も（あるいは…）と思わなかった事も無いではありませんが、結局3年生と1年生で構成したチームで戦った訳で、1年生の20期にとっては、さぞかし苦しい毎日だったろうと思います。

一年生の4月ウイングで初試合、ディフェンスで敵の落球を拾いそのまま走って初トライ。それがラグビー病みつきの始まり。 川辺武巳

精神的にも肉体的にも限界に挑戦して、乗り切った夏合宿の思い出は今でも自信を与えてくれている。ありがとうラグビー。

伊藤英武

もし、人生一度だけやり直しがきくのなら、千歳高校入学時にもどり20期生と共に絶対に絶対に全国大会に行ってみせる。

平井秀和

対京高新人戦の勝利は、我がラグビー人生の中で、全国大会出場への夢と希望を与え、そして大学での活動に繋ぎ続けた。

三国良樹

八幡山育ちで、何となく千歳でラグビーをやると思っていた。今はただ懐かしいだけ。良き先輩、友を持てたのが人生の一大収穫。

高梨敬三

“千歳でラグビーを”親父の一言で、とても大きな財産を得た。忍耐、気力、体力、連携、先輩、後輩、女房、そして健康 湯沢義郎

スポーツを楽しむ事、一生懸命やる事、最後まであきらめない事を教えてくれ、そして一生の友達を得る事が出来たのがラグビーでした。

佐藤俊英

〈ラグビー成績表〉

○昭和35年11月～昭和36年11月までの戦歴

日付	大会名	対戦高	グラウンド	勝敗	スコア
s.35.11.12.	練習試合	中央大付属杉並高	千歳高校	○	23-0
11.26.	〃	烏山高校	烏山高校	○	15-0
12. 7.	〃	青山高校	千歳高校	○	0-3
s.36.1.14.	〃	日比谷高校	千歳高校	○	17-0
1.22.	36年度新人戦	専修大付属京王高	八幡山	○	8-3
1.29.	〃	園芸高校	〃	△	不戦勝
1.29.	〃	専修大付属京王高	〃	○	5-3
2. 5.	〃	小山台高校	〃	○	27-0
4. 3.	第1回七人制大会	法政一高	秩父宮	○	11-3
4. 4.	〃	豊多摩高校	〃	○	9-3
4. 4.	〃 ブロック決勝	保善高校	〃	●	5-9
4.16.	春季大会	大泉高校	大泉高校	●	5-11
4.30.	敗者復活戦	板橋高校	〃	○	50-0
5. 3.	関東大会出場決定	成城高校	成蹊高校	●	0-8
5. 7.	敗者復活第2回戦	久我山高校	本郷高校	○	6-6(抽選勝)
5.14.	敗者復活第3回戦	国士館高校	大泉高校	●	3-8
5.19.	練習試合	松原高校	松原高校	●	8-10
5.27.	〃	成城高校	千歳高校	○	9-6
7. 8.	〃	日比谷高校	〃	●	8-12
7.26.	〃	宇都宮高校	日光市営G	○	27-6
9. 9.	〃	早稲田学院	千歳高校	●	5-10
9.17.	OB戦	千歳高OB	〃	○	32-26
10.1.	練習試合	宇都宮工高校	〃	●	9-22
10.14.	〃	戸山高校	〃	○	14-11
10.15.	OB戦	千歳高OB	〃	○	30-18
10.21.	練習試合	小石川工高校	〃	○	18-5
10.29.	全国大会予選第1回戦	和光学園	日本大第2高校	○	38-6
11. 5.	全国大会予選第2回戦	日大鶴ヶ丘高校	〃	○	8-0
11.12.	全国大会予選第3回戦	専修大付属京王高校	本郷学園	●	3-14

○ポジション一覧

1	金井義勝	(3)
2	高梨敬三	(3)
3	河野浩隆	(1)
4	松本恵光	(1)
5	佐藤俊英	(3)
6	加納真一	(1)
7	三田良樹	(3)
8	鈴木滋男	(3)
9	平井秀和	(3)
10	川辺武己	(3)
11	伊藤英武	(3)
12	小高那彦	(1)
13	湯沢義郎	(3)
14	川口隆吉	(1)
15	木村	(1)

マネージャー 高橋孝次 (3)

補欠	大島	(1)
	高島	(1)
	松本克己	(1)
	斉藤栄作	(1)
	佐々木昇利	(1)
	長見	(1)
	巽原克洋	(1)
	落合寿昭	(1)
	高木俊二	(1)